

持続可能な上下水道事業に向けた 日水コン水インフラ財団の貢献

水インフラを取り巻く事業環境は、人口減少と執行体制の脆弱化、施設の老朽化、頻発する自然災害などにより、非常に難しい舵取りが求められている。こうした中、日水コンは持続可能な地域の水インフラ実現に貢献し、地域活力の向上と豊かな水環境の創造に寄与していくことを目的に、「一般財団法人日水コン水インフラ財団」を設立した。上下水道界に光を灯すこれらの取組みについて、同社の間山社長に話を聞いた。

日水コン代表取締役社長

間山 一典氏



■現在の 上下水道事業

社長就任以来、社員に「これからは「これまで」といって分けて考えるようにしています。そして、この転換期だからこそ、技術者として上下水道事業に身を置くことを喜びと感じてほしいと思っています。

「これからの時代の上下水道事業は、人口減少による料金・使用料収入の減少が見込まれている一方、老朽施設の改築・更新が必要になります。そんな時代ですが、だからこそ技術者が本当に力を発揮できる、まさに技術者責に生きる時代だと言えます。コンサルタンとして、知恵が必要とされ、知恵が評価される時代になっています。

私が技術者として第一線で仕事をしていた頃は、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

です。計画では、「壁を越える」「地域に根ざす」「足元を固める」の三つを基本施策としています。社会のさまざまな変化に適切に対応するためには、人材の確保が必須です。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、

質やエネルギーが二、三の次になっていた面もあったでしょう。それがこの転換期になっていくかもしれないと思うのですが、後ろばかり向いていても未来はありません。それらを本来あるべき姿に再構築するのがこれからの時代です。あるべき姿は、これからの社会の変化を「デジタル型」から「アナログ型」へと変換していき、これまで以上に、地域に最短距離で到達するデジタル・アナログの時代ですが、もともと正解がないからこそ成熟社会は、限られた材料で何をやるのかが問われるフロックを組み立てるような時代である、という意識です。

水道・下水道は、当面、広域化と官民連携が進むことが予想されています。これは、人口も水需要も天井が見えないほど増加していた時代で、日本の上下水道事業はそこそこのピークを乗り越えたところになって思っています。その一方で、整備の量やスピードが優先され、



水と社会インフラの関係を考える



創業・事業化支援
水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

水インフラ財団の事業

日水コンの経営から切り離すという意味があやふやなところも、口出しするつもりはありません。評議員、理事にはそうそうな人々に就任していただくために、活発な議論を期待しています。

「この間、秋田で「水」として、秋田事務所に所属して、地域との関係構築に取り組みました。私自身も秋田出身という縁から、市長や町長、地域の銀行など、話をさせてもらっています。昨年は、商工会議所から入会のお誘いもいただきました。中期経営計画では、「地域に根ざす」を掲げていますが、この中で、わが町の

地域に身を置くという、公的性に対する反響が多かったと感じました。これはつまり、若い人たちの社会に貢献したいという気持ちの表れではないでしょうか。

昔、ある方が「コンサルに必要なのは、Human network of intelligence with a heart」と言っていました。われわれコンサルは、ヒューマンネットワークが財産です。その中で、わが町の

地域に身を置くという、公的性に対する反響が多かったと感じました。これはつまり、若い人たちの社会に貢献したいという気持ちの表れではないでしょうか。

昔、ある方が「コンサルに必要なのは、Human network of intelligence with a heart」と言っていました。われわれコンサルは、ヒューマンネットワークが財産です。その中で、わが町の

地域に身を置くという、公的性に対する反響が多かったと感じました。これはつまり、若い人たちの社会に貢献したいという気持ちの表れではないでしょうか。

昔、ある方が「コンサルに必要なのは、Human network of intelligence with a heart」と言っていました。われわれコンサルは、ヒューマンネットワークが財産です。その中で、わが町の

地域に身を置くという、公的性に対する反響が多かったと感じました。これはつまり、若い人たちの社会に貢献したいという気持ちの表れではないでしょうか。

昔、ある方が「コンサルに必要なのは、Human network of intelligence with a heart」と言っていました。われわれコンサルは、ヒューマンネットワークが財産です。その中で、わが町の

地域に身を置くという、公的性に対する反響が多かったと感じました。これはつまり、若い人たちの社会に貢献したいという気持ちの表れではないでしょうか。

昔、ある方が「コンサルに必要なのは、Human network of intelligence with a heart」と言っていました。われわれコンサルは、ヒューマンネットワークが財産です。その中で、わが町の

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産

ヒューマンネットワークが財産



株式会社 日水コン

問題を解きほぐし、結びなおし、新たな未来を拓く
私たちは「水のインパクトカンパニー」です



地域における水をベースに社会インフラのあり方を考える



水への想いを
未来につなごう

一般財団法人 日水コン水インフラ財団
Nissucon Water Value-Up Foundation

理事長 野村 喜一

〒163-1122 東京都新宿区西新宿 6 丁目 22 番 1 号 (新宿スクエアタワー)

https://mizuinfra.or.jp/